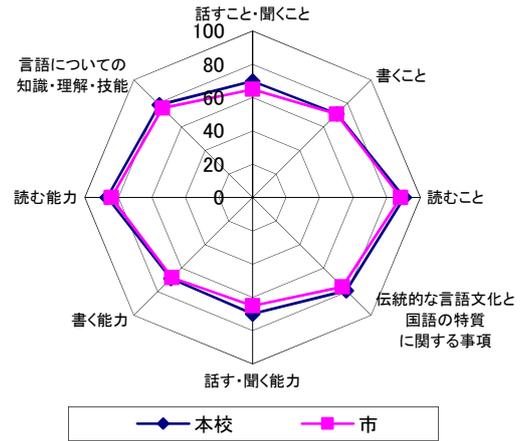


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.9	65.0	62.9
	書くこと	71.2	70.9	71.3
	読むこと	90.4	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.1	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	69.9	65.0	62.9
	書く能力	68.9	68.0	68.0
	読む能力	86.6	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	78.7	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

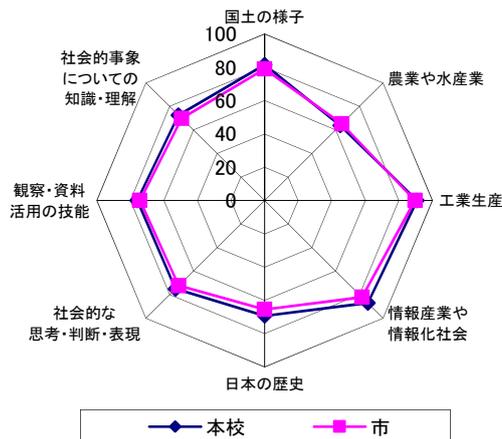
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○本校の平均正答率は市の平均を4.9ポイント上回っている。また、話し手の意図を考えながら話し合いの内容を聞く設問の平均正答率は8割を超えており、一定の習熟が見られる。</p> <p>○●司会者の役割を理解し計画的に話し合いができるかを問う設問では、市の平均正答率を9.1ポイント上回っているものの本校平均正答率が5割を下回り、課題があると言える。</p>	<p>・国語のみならず、各教科、特別活動等の中で話し合い活動への主体的参加を促せるような授業展開を考えていきたい。また、司会の仕方のモデルを提示するなど、習い覚える機会も設定していきたい。</p>
書くこと	<p>○本校の平均正答率は市の平均とほぼ等しい。</p> <p>○94.7%の児童が、文章中で目的に合わせて自分の立場を明確にすることができていた。</p> <p>○●資料の内容を読み取って適切な文章を選ぶ設問では、市の平均を10ポイント上回っているが、本校の平均正答率が7割に届かず、依然課題があると言える。</p>	<p>・国語に限らずどの教科でも、振り返りを文章で表す時間を意識的に設定し、適切な言葉を選び構成して作文できるように指導していきたい。</p> <p>・段落を意識して伝えたい内容を整理できるように、文章を書く活動において意識付けしていきたい。</p>
読むこと	<p>○本校の平均正答率は市の平均を2ポイント上回っている。</p> <p>○物語、説明文の読み取りのどちらの基本問題でも9割を超える平均正答率を得ており、十分習熟していると言える。</p> <p>○物語、説明文の読み取りのどちらの活用問題でも8割を超える平均正答率を得ており、おおむね習熟していると言える。</p>	<p>・児童が丁寧に文章と向き合えるような時間を今後も大切にして、文章読解に臨みたい。</p> <p>・今後も継続して読書を奨励し、児童が文章と親しめる環境づくりに努めたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○本校の平均正答率は市の平均を3.3ポイント上回っている。</p> <p>○●漢字の読みの本校の平均正答率は9割を超えており、一定の習熟が見られる。漢字の書きの平均正答率は、設問ごとにばらつきが見られる。</p> <p>○●文章の構成に関する設問では、市の平均正答率を10ポイント以上上回っているが、課題が見られる。</p>	<p>・漢字の学習は繰り返し練習を行うとともに、短文づくりや意味しらべなど、関連する知識と共に練習することで知識の定着を目指したい。</p> <p>・文章の構成を、話すこと、書くことの学習と関連させて、活用する中で繰り返し指導し、定着を図りたい。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	81.5	79.1	74.9
	農業や水産業	63.8	65.1	63.7
	工業生産	90.9	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	87.0	82.2	73.1
	日本の歴史	69.2	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	75.0	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	75.8	74.3	69.2
	社会的現象についての知識・理解	72.6	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○国土の様子に関する設問の本校における平均正答率は市の平均を2.4ポイント上回っている。 ○日本周辺の主な国の名称に関する設問の本校の平均正答率は8割を大きく上回り、おおむね定着していると言える。 ●日本周辺の海洋名を問う設問での本校の平均正答率は、8割を若干下回り課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習い覚えるべき名称を確認できる機会を設け、知識の定着を図りたい。 ○ 地図を活用し、国土の姿と知識をつなげて理解できるような活動を設定したい。 ○ 地域の防災活動に目を向ける機会を作り、児童の暮らしの中で防災意識を高めることができるようにしたい。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○食料自給率と食料輸入額の間を複数の資料から読み取る設問では、校内の平均正答率が8割を大きく上回っている。 ●米作りの作業工程に関する設問では、校内の平均正答率が6割を下回っている。 ○●資料を読み取り記述する設問では、市の平均正答率を2.5ポイント上回っているが、正答率は5割を下回り課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を利用して現状を読み取り、考察するような活動を授業時間内に取り入れるようにするとともに、考えたことを書く時間を増やしたい。 ○ 教師が行う授業中の話題提起において第1次産業に関する時事を取り入れるなど、児童の興味関心を高められるようにしたい。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ○工業生産に関する設問の本校における平均正答率は市の平均を1.2ポイント上回っている。また、9割を超えていることから、おおむね定着していると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、習い覚えるべき内容と、資料を読み取り、考え獲得すべき内容に丁寧に取り組めるように指導していきたい。
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ○マスメディアに関する設問では、本校の平均正答率が9割を超えており、知識の定着が見られると言える。また、市の平均を6.5ポイント上回っている。 ○医療ネットワークの利便性を資料より読み取る設問では、本校の平均正答率が8割を超えており、考え方がおおむね定着していると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、習い覚えるべき内容と、資料を読み取り、考え獲得すべき内容に丁寧に取り組めるように指導していきたい。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○●日本の歴史に関する本校の平均正答率は、69.2%と十分な定着が見られるとは言えないが、市の平均を3.8ポイント上回っている。 ●複数の資料を読み取って考え、記述する設問では市の平均正答率を10.4ポイント上回っているものの本校の平均正答率が5割に届かず、課題があると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、習い覚えるべき内容と資料を読み取り、考え獲得すべき内容に丁寧に取り組めるよう指導していきたい。 ○ 学習に必要な用語を使用して自分の考えをまとめたり、出来事に意味付けをしたりすることを取り入れ、考えたことを書く機会を増やしたい。

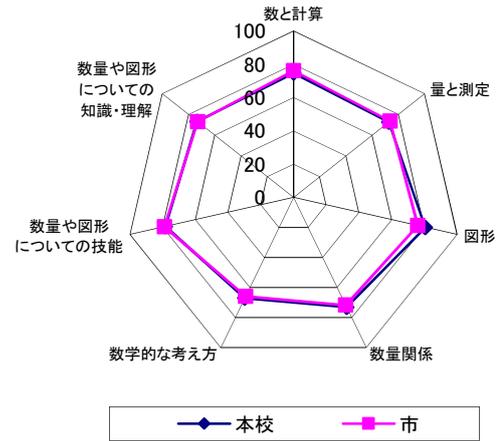
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.8	76.2	72.9
	量と測定	72.7	73.6	70.6
	図形	80.5	76.0	72.1
	数量関係	73.1	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	67.1	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	78.4	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	73.4	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

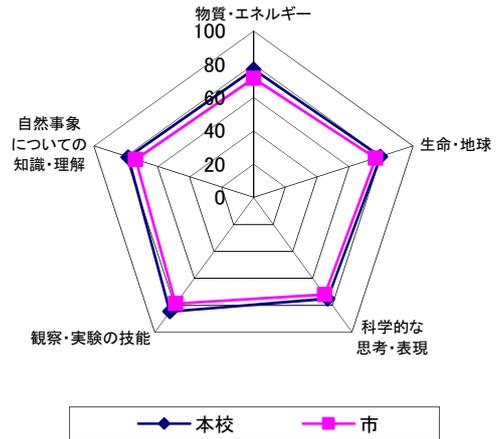
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は市の平均を1.4ポイント上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。</p> <p>○少数の計算や分数の計算の設問では、どの設問でも正答率が80%を上回っており、基本的な技能が定着していると言える。</p> <p>●問題の場面を理解し正しい答えを求め、その理由を説明する設問では、正答率が市の平均を下回っており、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分数や小数の交じった計算を復習し、基本的な計算力がさらに身に付くよう指導する。 ・公倍数や公約数を復習し、それらを活用した文章問題を解く機会を多く設ける。
量と測定	<p>○平均正答率は市の平均を0.6ポイント上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。</p> <p>○2人の作業の速さを比較し、どちらが速いか正しい答えを求め理由を説明する設問では、市と全国両方の平均を上回っており、学習内容の定着が見られる。</p> <p>●教室の面積と児童の人数から1㎡あたりの人数を求める式を選ぶ設問では、正答率が25%であり、単位量あたりの大きさの学習に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量あたりの大きさの学習を復習し、公式を確実におさえられるよう指導する。 ・公式に当てはめるだけではなく、その式が、今解いている問題の何を求めているのかを考えながら解けるよう指導する。
図形	<p>○平均正答率は市の平均を4.5ポイント上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。</p> <p>○3辺の長さを使って合同な三角形を作図する設問では、正答率が95.2%と、基本的な作図の方法の定着が見られる。</p> <p>●正六角形の、1つの内角の大きさを求める設問では、市と全国の平均を上回ったものの、正答率は76%であり、やや課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や四角形を作図や、折ったり切ったりする操作活動を多く取り入れ、視覚的にまた、体験的に理解できるような授業展開を心がける。 ・コンパスや分度器などの用具を使った作図の機会を多く設けることで、作図に必要な長さや角度を意識できるようにする。
数量関係	<p>○平均正答率は市の平均を1.3ポイント上回っており、学習内容は概ね身に付いていると言える。</p> <p>○比例の関係を、文字を使って式に表す設問では、正答率が92.3%となっており、基本の定着が見られる。</p> <p>●問題文から、必要な材料の比を読み取りその量を求める設問では、正答率が30.8%となっており課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でも割合や比が使われている例に触れ、より身近なものとしてとらえられるようにする。 ・様々なグラフがあることにふれ、それぞれの良さを考えられるよう指導する。

宇都宮市立今泉小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.9	71.6	67.4
	生命・地球	79.6	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	75.2	72.1	68.8
	観察・実験の技能	84.7	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	78.6	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は市の平均を5.3ポイント上回っており、基本的な学習内容の定着が見られる。 ○水よう液の性質に関する設問では、どの設問も市の平均正答率を10ポイント以上上回っており、学習内容の定着が見られる。 ●電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べるためにはどの実験を比較すればよいかを答える設問では、正答率が60.6%と、やや課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の方法や目的、その時に使う器具等の名前をもう一度確認する。 ・実験の際には、どのようなことを調べるのか、そのためにはどのような実験をすればよいのかをよく意識させるようにする。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は市の平均を3ポイント上回っており、基本的な学習内容の定着が見られる。 ○植物のつくりとはたらきに関する設問では、どちらの設問も正答率が90%を超えており、学習内容の定着が見られる。 ●ヒトの器官について、心臓を答える設問の正答率は90%を超えているが、じん臓を答える設問の正答率は57.7%にとどまり、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの器官とその働きをもう一度よく確認する。 ・植物や動物のからだのつくりや働きに興味をもてるように、自然と触れ合う機会をなるべく多く設けるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の学習に継続性を生み出すことで学習内容の獲得、深化、統合を促し、確かな力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における【目標(めあて・ねらい)】の提示と書く活動を伴う【振り返り】の実施。 ・各自が設定した【目標(めあて・ねらい)】に従った自主学習への取り組みの 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」に対する肯定的回答割合が4/6の学年で市の平均を上回っている。 ・「自分から学習に取り組んでいる」では3/6の学年で市の平均を上回っている。
学習活動と取り組み方の共通化と個別化を視点に、学業指導に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト等を直して身に付ける学習やドリル学習を継続的に行うとともに、内容は児童により個別化できるようにする。 ・具体的な操作を伴う教材や器具等の活用について共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「テストで間違えた問題はもう一度やり直している」や「新しくなったことを繰り返し練習している」に対する肯定的回答割合が8割を超えている。 ・「理科が好き」に対する肯定的回答割合が9割を超えている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・本校4～6年生児童の学習状況は、国・県・市の調査ともにほぼ平均を上回り、良好な状況があると言える。学校として「自ら考えて進んで学び合う児童の育成を目指して～主体的参加を促す授業デザインの工夫～」を研究主題に据え、授業実践研究と自主学習の励行に取り組んできた結果であると考えられる。次年度も継続して児童の主体的な学習を促進できるよう、授業時間と家庭学習、それをつなぐ自主学習を意識した学びを稼働できる学業指導に努める。